

特選神名牌

石德高神社

祭日

社格

所在

廿二

元  
一

今豈未有鼎記出現先に石徳高神社は君澤郡江間村雄徳山神祠なるべし其は石徳は石床の意高はタケと訓て嵩の意と聞ゆるをこの山の岩壁よく石床高の稱にかなひ山頂舊祠の址に寶殿平前殿平神樂石など云稱の遺れるのみにあらず山名の雄徳は石徳の訛轉と聞ゆるなど證とすべし斯て後に社を西麓チム野に遷し又丸山に豆塚に移せり豆志に記せる如く寺家村八幡も此雄徳山より遷してもと此山上に石徳高神社の鎮座也し確證と云しも強言に非じざるは此江間郷北條郷はもと一郷なるを村里の區分せるより總鎮守とある雄徳山の神を江間の郷にてはチン野に遷し北條の郷にては寺家村の守山に遷したるより山上の本社遷に廢絶に及び雄徳山の稱號のみ遺れる事となりし也此他諸説あれど此二處の内にて定むべきことなるべし

祭日 祭神  
社格 村社  
所在 堀切村 (益山〇今田方郡修繕寺村大字堀切)  
今按式社考證に堀切村に益山あり豆志の部に云養加山岳  
山寺 (堀切) 益山の上にあり云々とみえて二十町許高き山岳  
上なるが東の方に伊加麻入と云谷ある神益村夫より麓に  
神益と云村ある南方の麓に神戸と稱する地あるに屬す北  
方に加麻が洞と云谷ある等は更なり山號の養加は伊加の  
轉訛寺號の益山は麻志山の意と聞ゆるを思に伊加麻志の  
稱呼の遺存れる事論無しと云る實にあたれり故れ縣の注  
進狀にも此地と定めたれば之に從ふ

所在社格 祭日 祭神

今按伊豆志に廣瀬神社第四宮と稱す祀り倉稻魂命ニ云々廣瀬は小濱池旁の地名なり甚小祠となる故或は誤て辨天と稱すとあり式社攷證に田方郡田京村深澤明神なるべし其は豆志に深澤明神村溝穢始命瓊々杵尊々二神を祀る田中

本村の新創社にして神廟大也云々必三島同神にして式  
社なるべしと記されたる如く他に異なる所あることは  
更なり社記寛年間の文書に柳原神社とみえ明和の奉加  
簿に延喜式神名帳に柳原神社と申奉るは則是也とみえた  
るがこは三島大社に次て此社ばかり大社は無れば楊原神  
社の名神大の社なるに思合せて然稱へたると聞ゆれど楊  
原神社は現今社地判然なれば協はざること論なく楊原神  
社に次で所由あるは廣瀬神社にて楊原を三の宮廣瀬を四  
宮と稱するは所由ありて聞ゆるに深澤明神より外に充べ  
き社の元と廣瀬の稱に適へる社地なるにて知べし其社地  
は狩野の大川あり東方よりは浮橋川流れ出て西南方より  
は大澤川流出て社下に至て狩野川に合し落合處なれば  
川幅廣くして廣瀬と云稱によく符へれば少しも疑無るべ  
しと云るいと由ありて聞ゆ尙よく考へし

小河泉水神社  
祭神

今昔此地熊野神と八幡神を合祀されるより熊野櫻現と云ひ  
祭神を伊弉諾尊伊弉冉尊など云るなれど小河にます水神  
神か又は小河の泉郷にます水神を祭れるものなるべし  
祭日 十一月十八日

**所在** 下香貫村(山宮今屋郡(駿東郡楊原村大字下香貫))  
今置伊豆式社認證には香貫村と云は豆志の説なれど考合べき證なしとみえ一説に賀茂郡上白岩村大宮明神ならんか大宮はもと大朝宮と云しを後に朝字を省きて大宮とせんしか又大朝をおほみやとも訓しに非じかと云れど此説信がたし又一説に田方郡神金村駒形神社なるべし社後の山

所在 湯川村字泉郷(今屋)駿東郡清水村大字湯川村  
今按式社攷證に豆志に云今熊野權現と稱す在ニ駿東郡湯  
川村「もと熊野八幡を配祀せしが八幡は同郡八幡村へ遷  
座ありしと云又駿界小川有今は二川に界するを以て界川  
と名つく古は小河と云しと思はる此河西諸村的場より堂  
庭に至るの七村を泉郷と云柿田川の源泉此に沸湧するを  
以て名づく湯川村最古村にして其土神は八幡宮に熊野を  
配す傳説して泉郷の總鎮守也とされば此神を以て之に當  
べしとみえたる穩當なりと云るが如く異說あることなし

今按豆州志に祀三大日靈貴今は山宮又潮智明神と稱すと  
あれど大朝と云によりて大日靈を附會せしものと聞ゆれ  
ばとらず

**所在** 下香貫村  
駿河郡駿崎町今屋（駿東郡楊原村大字下香貫）  
今按伊豆式社攷證には香貫村と云は豆志の説なれど考合  
べき證なしとみえ一説に賀茂郡上白岩村大宮明神ならん  
か大宮はもと大朝宮と云しを後に朝字を省きて大宮とせ  
しか又大朝をおほみやとも訓しに非じかと云れど此説信  
がたし又一説に田方郡神益村駒形神社なるべし社後の山